

令和5年9月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	4	議席 番号	6	氏名	中 野 健太郎 議員	1 / 2
発言項目		要 旨				答弁者
1	少子化対策≠人口減少対策、第6次富士宮市総合計画への反映について	<p>日本が人口減少社会にあるのは、誰もが知る常識である。富士宮市の人口は10年前の2013年に13万3,879人だったのに対し、本年4月には12万8,706人まで減少した。</p> <p>2015年策定の人口ビジョンでは、「現状の将来人口推計」が2060年に8万6,447人になるのに対し、「目指すべき将来展望人口」を11万84人と設定し、総合計画に沿い出産・子育て支援や出会い・結婚応援等の政策を進めてきた。一方で、現状は大変厳しく、人口ビジョン策定時から出生数は年間312人減、生産年齢人口(15 - 64歳)では年間2,415人減少するなど、歯止めがかかっている状況にない。</p> <p>もはや合計特殊出生率2.1を実現することは非現実的であり、少子化対策≠人口減少対策という事実を受け止めなくてはならない状況と言える。</p> <p>そこで、2030年問題に直面する第6次富士宮市総合計画策定に当たっては、人口減少による富士宮市の未来を可視化するとともに、自治体としての生き残り策を盛り込むべきと考え、以下、市の見解を伺う。</p> <p>(1) 富士宮市人口ビジョンにおける「目指すべき将来展望人口」及び「現状の将来人口推計」に対する2023年度時点での見解は。</p> <p>(2) さらに人口減少が進行する近い将来、富士宮市政運営においてどのような事態が発生するか把握しているか。また少子化対策推進本部では、確実に人口が減少するという観点からの取組策について議論がなされているか。</p> <p>(3) 第6次富士宮市総合計画で、いかなる将来都市像と重点的な取組をイメージしているのか。人口減少を前提とした現実的な市政運営を重点的に取り組むべきと考えるが、いかがか。</p>				市長 副市長 関係部長
2	プラスチックの分別収集開始に向けた、ごみ収集時における安全対策について	<p>令和6年4月から、現在可燃ごみとして収集しているプラスチックを資源としてリサイクルする分別収集が始まる。先行して取り組む自治体では、この新たな資源ごみ回収で重大な火災事故が多数発生しており、プラスチック分別収集だけでなく同時に行う対策が必要と捉え、以下質問する。</p> <p>(1) ごみ収集車や清掃センターにおける火災発生状況について。</p> <p>(2) リチウムイオン電池などの充電式電池や充電式の電化製品の回収(回収拠点を含む)を導入できないか。</p> <p>(3) ごみ収集作業員の安全確保の観点から、ごみの種類の見分けのできる色の指定袋を導入できないか。</p>				市長 副市長 関係部長
3	福祉避難所の運用について	<p>平成8年の老人福祉施設等の使用に関する協定を皮切りに、富士宮市では災害発生時の高齢者や障がいのある方々など、特別な配慮が求められる方々への対応が進められてきた。一方、超高齢社会に突入した現在、これまでの対応を見直す必要が生じている。</p> <p>福祉避難所については、検討会が令和2年9月に開催されて以来、新型コロナウイルス対応で開催が滞っているが、パンデミック時であっても大災害の発生は待ってくれず、施設、市民とともに早急な応援等の受入れ体制を構築する必要があると捉え、以下質問する。</p>				市長 副市長 関係部長

発言 順序	4	議席 番号	6	氏名	中 野 健太郎 議員	2 / 2
発 言 項 目		要 旨				答 弁 者
		(1) 福祉避難所検討会の再開のめどはいかがか。また、収容可能人員、介護支援者数、必要物資等について、施設側との連携は行われているか。 (2) 福祉避難所の対象となる市民の概数の把握及びどの被災者を福祉避難所へ避難させるかの判断について。 (3) 福祉避難所を支える支援者の確保について。				